

発行所  
長野県保険医協会  
〒380-0928 長野市若里 1-5-26  
電話 026-226-0086  
FAX 026-226-8698  
E-mail office@nagano-hok.com  
年間購読料 3,600円  
会員の購読料は会費に含まれています



2024年(令和6年)4月25日  
No.518 (毎月1回25日発行)  
(1990年6月22日第三種郵便物認可)  
主な記事  
2024年度活動方針…2~4面、改定トピックス / 歯科診療報酬改定への見解…4面、  
医科新点数検討会 / 保険かわら版 / 書籍案内…5面、  
歯科Q&A / 理事会便り…6面

## 全議案を可決

### 第45回定期総会

県保険医協会は3月24日(日)に第45回定期総会を松本市アルピコプラザホテルにて開催した。Web参加も可能とし、総会議事に12名、記念講演に約90名が参加した。記念講演は内科医の占部まり氏を講師に迎えた。占部氏は、父であり経済学者の宇沢弘文氏が提唱した「社会的共通資本」という考え方を元に、医療のあるべき姿を論じ、講演後は医療関係者等から多数の質問が寄せられた。



決議案の採択

総会では原理事を議長に選出し、医科7名、歯科4名の物故会員に黙祷を捧げた後、議事に入った。

第1号議案 2023年度活動報告を池上副会長、第2号議案 2024年度活動方針を奥山副会長、第3号~5号議案の▽2022年度決算報告並びに会計監査報告▽2023年度補正予算▽2024年度予算を市川副会長、第6号議案の役員改選を三田副会長が提案し、それぞれ原案通り可決された。2026年度末までの新役員一覧は右表の通り。会長には宮沢会長が再任した。

第7号の決議案は、健康保険証の存続を求めることを始めに、オンライン資格確認やオンライン請求の義務化の撤回、診療報酬の大幅引き上げ及び患者窓口負担の軽減、新型コロナの公費負担等の継続、消費税引き下げなどの8項目について池上副会長が提案し、一部文言追加の上、採択された。

可決された活動方針は2面以降を参照されたい。なお、決議は内閣総理大臣、関係大臣、地元選出国會議員等に送付した。



再任が決まった宮沢会長



記念講演には会場約40名、Web48名が参加した

## 長野県保険医協会 役員名簿

任期 2024年4月1日~2026年3月31日

- ◇会長 宮沢 裕夫(歯)
- ◇理事 雨宮 雷太(整リハ)、池上 正資(歯)、伊佐津 和朗(歯)、市川 誠(歯)、大石 浩三(歯)、奥山 秀樹(歯・歯外)、金澤 新(内小)、神谷 誠(歯)、金 秀成(内小)、小塚 一芳(歯)、後藤 恵実留(歯)、新澤 みどり(皮)、原 寛美(リハ)、林 賢(外)、林 康二(歯)、林 春二(歯)、布山 徹(歯)、降旗 康敬(内循)、丸山 正幸(内外)、丸山 康弘(内消)、三田 温(耳)、蓑島 宗夫(小ア)、宮下 みどり(歯)、山崎 徹(内ア)、米田 隆紀(歯)
- ※副会長は4月度理事会で互選する
- ◇監査 河野 文幸(歯)、原山 周一郎(歯)
- ◇事務局長 原 淳
- (顧問) 張 洛善、田畑 幸男

### 決議

- 一、健康保険証の廃止を撤回し、現行の健康保険証を存続させること。
- 一、オンライン資格確認整備の義務化、オンライン請求の実質義務化方針について撤回すること。
- 一、膨大な財政赤字がある中で防衛費の大幅な増額は中止すること。
- 一、医療保険制度を改善して医療費抑制をしないこと。
- 一、基本診療料及び処置等の技術料を十分に評価し、すべての医療機関が経営を持続できるよう、医療費の総枠を拡大し診療報酬を大幅に引き上げるとともに、患者の窓口負担割合を軽減すること。
- 一、新型コロナウイルス感染症の検査・治療に対する公費負担を復活すること。少なくとも治療薬の公費負担及び高額療養費制度の自己負担限度額減額措置を4月以降も継続すること。
- 一、消費税は当面、税率5%に引き下げ、将来的には廃止すること。インボイス制度は廃止すること。
- 一、社会保障財源は、応能負担の原則に基づき保険料や税の累進性を強化して確保するだけでなく、必要に応じて公費を投入すること。

健康保険証の存続を求め署名活動等にご協力ください。政府は今年12月2日に現行の健康保険証を廃止し、強引にマイナ保険証に一本化しようとしています。利用率が5%台と低迷する中でも様々なトラブルが起きているマイナ保険証に一本化されれば、窓口での事務負担が増えるほか、不便さから医療から遠ざかってしまう患者さんも出てくるかもしれません。また、マイナンバーによる国民の金融資産額等の把握が進めば、更なる医療費負担増や税制改悪が予想されます。

県保険医協会では、マイナ保険証への一本化の中止と現行の保険証を存続を求める運動を行っており、現在は主

に署名活動と国民理解を促すためのクイズキャンペーンを実施中です。

ご協力いただいた署名は、保険医協会でご集約し、長野県選出の国會議員を通じて今国会に提出します。過去にご協力いただいた方につきましても、提出する国会が変わったため再度ご協力をお願いします。

### 保険証の存続を！活動にご協力ください

「クイズで考えるわたしたちの医療2024~保険証を残そう！」キャンペーンについては6月末まで実施中。保険証に関する簡単なクイズに答えて応募すると、抽選でコードレス掃除機やカタログギフトなどが当たる。署名と併せてぜひご活用ください。

### 鶏声

長野県保険医協会に勤務医会員として加入して長らく経つ。かつて長野県保険医協会の編集委員や医科歯科連携を目指した軽井沢セミナーの参加など有意義な経験を経てきた。しばらく長野協会の活動から遠ざかっていたが、昨年宮沢会長からSNSを通じて改めて長野協会の理事へのお誘いがあった。そして今年度保団連理事にご推挙頂き、協会活動へのスタンスは激変した。その中で医療・保険診療の情勢に対しては、極めて不勉強であったことを痛感する日々が始まった。◆初めて保団連定期大会と理事会に参加して気付かされたのは、参加者の医療情勢を俯瞰した問題意識レベルの高さである。PFASによる水汚染問題、コロナワクチン接種後の副反応・健康被害問題、さらに地域保健医療計画と

2040年課題など、知るべき情報は尽きない。各県保険医協会の新聞なども見る機会も増えた。その中では直近の診療報酬改定の詳細や対処法、さらに石川保険医新聞には能登半島被災地の会員の生々しい声が掲載されており得がたい情報源となっている。◆保団連では出版部担当となり、月刊保団連を限らず読む習慣があった。60頁の薄っぺらな冊子だが、他のマスメディアでは到底得ることができない重要な内容がぎっしり詰まっている。3月号「道」には明治の衛生行政を担った北里柴三郎と森鷗外の光と影が書かれている。さらに特集の「医者言葉・患者の言葉」も医師として知悉すべき内容であった。◆保険医協会・保団連はこうして我が国の医療を進める上で、不可欠な知識集団となっていると感じている。(H・H)